

人情斬・文七元結

昭和虞美人草



原作=三遊亭圓朝
 脚本=平田兼三
 演出=小野文隆

出演=藤川矢之輔、忠村臣弥 ほか

作=マキノノゾミ
 演出=西川信廣

出演=早坂直家、植田真介、齊藤祐一、富沢亜古 ほか

2月	13日	18日
10日(金)	○	○
11日(土)	○	
12日(日)	○	
13日(月)	○	
14日(火)	●	

●=12:30開演

ご注意
 例会日程は、変更になる場合があります。

ももちパルス

4月	13日	18日
11日(火)	○	○
12日(水)	○	
13日(木)	○	
14日(金)	○	
15日(土)	●	

●=12:30開演

ご注意
 例会日程は、変更になる場合があります。

ももちパルス

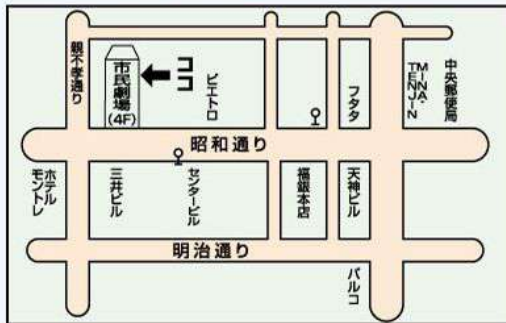
自分たちで会費を持ち寄り 自分たちで運営する市民劇場 入会のご案内

いま、わたしたちは情報化社会の進行と経済優先の効率主義のなかで、ますます不安が増大し、人間性の喪失にはげしくおびやかされています。しかし、そのような空虚な時代だからこそ、真の美しさ、優しさ、希望、愛情など、人間性の尊厳を高らかに謳う演劇がわたしたちにとってかけがえのないほど大切なものはいまでもありません。

「自分たちで会費を持ち寄り、自分たちで運営する市民劇場」は、1961年春に創立し、2021年に60周年を迎え、この間に例会にとりあげたお芝居は、内外の古典演劇から現代創作劇にいたるまで、じつに455本にも及びます。福岡市民劇場は現在会員数約3,300名。毎月2,300円の会費を持ち寄り、年6回の例会（鑑賞会）を催しています。

入会要領

- ①3名以上でサークルを作って入会
- ②1年以上は会員として継続すること
- ③入会金=大人:2,000円、中学生:1,000円
 会費=毎月 大人:2,300円、中学生:1,100円



福岡市民劇場

福岡市中央区天神3-4-10
 天神西茂ビル4F

TEL 771-8671・FAX 771-9160

2022年 例会の
 ごあんない

福岡市民劇場

会員制演劇鑑賞会

舞台上しか
 味わえない感動

2月例会 無名塾

4月例会 文学座

6月例会 民藝

8月例会 Pカンパニー

10月例会 俳優座劇場

12月例会 こまつ座

仲代達矢役者七十周年記念 左の腕



原作=松本清張
演出=仲代達矢 岡山 矢
出演=仲代達矢 長森雅人
西山知佐 円地晶子 ほか

2月	13	18
15日(火)		○
16日(水)	○	
17日(木)	○	
18日(金)		○
19日(土)	●	

●=12:30開演
○=12:30開演
○=12:30開演
●=12:30開演
○=12:30開演
●=12:30開演

○=12:30開演
●=12:30開演
○=12:30開演
●=12:30開演

ももちパレス

一銭陶貨



作=佃 典彦
演出=松本祐子
出演=中村彰男、高橋ひろし
上川路啓志、奥山美代子 ほか

4月	13	18
11日(月)		○
12日(火)	○	
13日(水)		○
14日(木)	○	
15日(金)	●	

○=12:30開演
●=12:30開演
○=12:30開演
●=12:30開演

○=12:30開演
●=12:30開演
○=12:30開演
●=12:30開演

ももちパレス

グレイクリスマス



作=斎藤 憐
演出=丹野郁弓
出演=中地美佐子、塩田泰久
岡本健一、神保有輝美 ほか

6月	13	18
10日(金)		○
11日(土)	○	
12日(日)	○	
13日(月)		○
14日(火)	●	

○=12:30開演
●=12:30開演
○=12:30開演
●=12:30開演

○=12:30開演
●=12:30開演
○=12:30開演
●=12:30開演

ももちパレス

はだしのゲン



原作=中沢啓治
脚本・演出=木島 恭
出演=いまむら小穂、木村愛子
内田龍磨 ほか

7月	13	18
26日(火)		○
27日(水)	○	
28日(木)	○	
29日(金)		○
30日(土)	●	

○=12:30開演
●=12:30開演
○=12:30開演
●=12:30開演

○=12:30開演
●=12:30開演
○=12:30開演
●=12:30開演

ももちパレス

音楽劇 人形の家



翻訳=原千代海
演出=西川信廣
音楽=上田 亨
出演=土居裕子、大場泰正
島中 洋 ほか

9月	13	18
27日(火)		○
28日(水)	○	
29日(木)	○	
30日(金)		○
10月1日(土)	●	

○=12:30開演
●=12:30開演
○=12:30開演
●=12:30開演

○=12:30開演
●=12:30開演
○=12:30開演
●=12:30開演

ももちパレス

イヌの仇討



原作・脚色=井上ひさし
演出=東 憲司
出演=大谷充介、依木藤汰、
石原由宇 ほか

12月	13	18
9日(金)		○
10日(土)	○	
11日(日)	○	
12日(月)		休演日
13日(火)		○
14日(水)	●	

○=12:30開演
●=12:30開演
○=12:30開演
●=12:30開演

ももちパレス

井上ひさしが独自の視点で忠臣蔵を見つめ直し、悪役とされてきた吉良上野介に寄り添い、「世論」や「権力」から見放され翻弄されながらも、それらに立ち向かっていく姿を描いた忠臣蔵、異聞、ともいえる作品。誰もが知っている物語、しかし、同時に誰も知らない真実がひそむ舞台に。

舞台は、江戸、深川。老父一人、娘一人の親子は、老父の飴売りでやっと暮らす日々。その窮状を救おうと、父娘と一緒に、料理屋の働き口を世話され、やっと掴んだ平穏な暮らし。しかしそこに、仄かな影が射し始める。市井に生きる者の姿を誠実に、骨太に描く、仲代達矢役者70周年記念の作品。

第二次大戦末期、明日をも知れぬ命をかけて「陶貨製造」に心血を注いだ人間たちのこれは実話に基づいた物語。陶芸家の次男・昭一は訳あって陶貨作りに取組むことになるが、予期せぬ困難が次々に襲いかかるなか、瀬戸の「窯ぐれ」の意地をかけた闘いが続く。そしてついに完成するが……。

物語は敗戦の年1945年のクリスマスから、アメリカではマッカーシー旋風の赤狩りが吹きはじめ、日本では朝鮮戦争の特需景気に沸いた敗戦直後の歴史を背景に、伯爵五条家を舞台にさまざまなエピソードが感動と笑いを交えてダイナミックに展開される。30年ぶりに待望の再演。

原作者・中沢啓治さんの被爆体験から生まれた、苦しみ悲しみを乗り越え、青麦のように元気に真っすぐに、強い心で生きるゲン。この舞台を通して犠牲者の声なき声に心を痛めながら、今、生きて、在る、この実感を確かめ合い、広島・長崎を遠い過去にしないために、より多くの人に伝えたい物語。

作家イブセンは社会劇の創始者と言われ、とくに1879年に発表された『人形の家』は新しい女性像を世に示し、近代劇の出発点となった作品としてあまりに有名。大胆にも『音楽劇』として蘇らせたこの作品。ストリートプレイでもなく、ミュージカルでもなく、あえて音楽劇とした意図はなにか。